

学校法人 神戸薬科大学

2026 年度事業計画

神戸薬科大学（以下「本学」という）は、2022 年度から 2026 年度までの 5 年間を期間とする「第 3 期中期計画」を策定しており、2026 年度はその最終年度を迎えます。

現在、18 歳人口の減少や薬学系志望者の低迷、大学間競争の激化など、本学を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。こうした中、本学がさらなる発展を遂げるためには、「改革」「変革」および「ガバナンス強化」への高い意識を持つことが不可欠です。2026 年度も引き続き教職協働による組織的な改善を推進し、内部質保証システムに基づいた PDCA サイクルを機能させることで、全学を挙げて本学の価値向上に努めます。

本年度の事業計画では、予算大綱に掲げた「キャンパス整備（学生向け施設の充実）」「学生募集および入試広報の強化」「学内情報基盤整備の推進」を 3 つの重点項目とし、教育環境の整備と優秀な学生の確保に注力します。また、改正私立学校法の施行（2025 年 4 月 1 日）に伴う新寄附行為に基づき役員等の改選を行い、理事会で決定した基本方針に従って、引き続き内部統制システムの整備・強化を推進してまいります。

【教育環境整備事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ア)

- ・主体性、行動力、課題発見力、答えのない課題に取り組む力を兼ね備えた人材の育成
- ・問題発見能力、思考力、行動力を活用し薬学の未来を牽引する人材の育成
- ・基礎から応用までを主体的に考える教育

(イ)

- ・思考力育成（課題発見能力、問題解決能力、文理融合型学習）型教育の開発
- ・成績下位者及び上位者の教育方策の開発
- ・順次性のある体系的なカリキュラムの構築
- ・新カリキュラムの検証
- ・国家試験合格率向上への取り組み

（目標：ストレート卒業率 90%、ストレート合格率 80%）

- ・FD 研修の定期的な実施
- ・教育方法及び教育の成果等に関する調査及び分析

(ケ)

- ・教育 IR のデータ収集（2022 年～）、分析（2024 年～）、活用（2025 年～）

教育活動においては、新カリキュラム導入から一つの節目となる 4 年目を昨年度に終えました。これを受け、新カリキュラム下で初めての受験となった共用試験（CBT、OSCE）の結果やストレート進級率を客観的な指標として、カリキュラムの成果を多角的に検証し、さらなる充実を図ります。あわせて、この検証結果に基づき、これまでの改善策が学習効果にどのように寄与したかを見極め、次年度以降の教育の質向上へとつなげます。これら教育 IR の分析に関しては、活動の拠点となる総合教育研究センターの教員を中心に、今後の「ストレート卒業率、薬剤師国家試験ストレート合格率の向上」に向けた「教育方法及び教育の成果等に関する調査と分析」を実施し、その成果を「定期的な FD 研修会」を通して、全教員へ共有していきます。また、その結果を活用して、補講などの低学力の学生のための学修支援を実施します。さらに、2024 年度から適用されている「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」についても、並行して検証を進めます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

標準修業年限内の卒業率 80%

(2025 年 3 月標準修業年限内の卒業率 80.1%)

薬剤師国家試験ストレート合格率 70%

(2025 年 3 月施行第 110 薬剤師国家試験ストレート合格率結果 67.9%)

【学生支援事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ウ)

・大学ブランド力の強化

経済面の支援：引き続き、成績優秀者を対象とした「神戸薬科大学奨学生制度」による支援を継続しつつ、家計が急変した学生を対象とした「神戸薬科大学応急援助奨学生制度」の拡充を検討します。これにより、学生が経済的に安心して勉学に取り組める環境を整備します。

健康・精神面の支援：学生相談室の体制をリニューアルし、医務室、クラス担任との連携を強化し、健康診断の受診促進やメンタルヘルス疾患の予防、セルフケアに関する情報を積極的に発信し、心身の健康維持を支援します。また、合理的配慮に基づく障害のある学生への支援については、個々の状況に応じた対応が適切に行われるよう、必要に応じて運用面の見直し・改善を図ります。さらに、孤独感を抱える学生を生むことのないよう、学生同士のつながりを深める行事の企画・実施にも取り組みます。これらの取り組みを通じて、学生が安心して通学し、学業に専念できる「居場所」となる環境づくりに努めます。

キャリア支援：病院志望者へのキャリア支援として、臨床特命教授によるキャリア相談の

機会を設けます。企業志望者に対しては、キャリア支援委員会や各研究室と連携し、中堅・中小規模も含めた優良企業の情報を収集し提供していきます。また、これらの情報をイベントやキャリア相談を通じて広く周知し、学生の多様なキャリア形成を支援します。

その他：学生の安心・安全を確保するため、引き続き安否確認システム ANPIC（アンピック）の登録率向上に取り組むとともに、災害時等における確実な安否情報把握体制の強化に努めます。また、学生の課外活動の充実を目的として、提携法人等と連携し、ボランティア活動の機会を提供することで、地域社会や患者への貢献を通じた学びの機会を創出していきます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

2026 年度卒業生の進路決定率 100%

内訳：病院・企業・公務員・大学院進学合計で 60%

（2024 年度卒業生の 5 月 1 日における卒業生の進路決定率 100%

内訳：病院・企業・公務員・大学院進学合計で 50.1%）

安否確認システム ANPIC（アンピック）登録率 100%

（2026 年 1 月末時点 89%）

【研究推進事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

（ア）

- ・「良い研究が良い教育を生む」の信念のもと、研究支援組織の整備

（ウ）

- ・不正防止システムのチェック機能強化

（ケ）

- ・研究 IR のデータ収集（2023 年～）、分析（2025 年～）、活用（2026 年～）

研究活動において、「学長裁量経費に基づく共同研究」については、2025 年度に新たに採択した研究課題を継続して実施します。日本私立学校振興・共済事業団「大学間連携等による共同研究」「学術研究振興資金」を積極的に推進します。日本学術振興会「科学研究費助成事業」や科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業」等、競争的研究費等の獲得拡大を目指すほか、科学技術振興機構「共創の場形成支援プログラム」等に参画します。将来に備え「大型、中型機器の購入に備えた研究充実準備積立金」として購入資金の積立を実施します。中期計画に定める「研究 IR」（2026 年度：研究データ活用）、内閣府が求める「研究インテグリティの確保」、文部科学省が求める「研究不正防止の取り組み」、経済産業省が求め

る「安全保障輸出管理」に係る対応に引き続き取り組みます。また、2025 年 10 月から学長特命補佐が中心となって進めている本学を代表するような研究プロジェクトを創出する取り組みを継続して実施します。

さらに、2024 年度に設置したイノベーションラボの有効活用について、大型の競争的研究費等を獲得した教員による使用のほか、大学ホームページや外部サイトへの情報掲載等を通して、企業等との共同研究における活用を引き続き模索します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

研究成果に関するプレスリリース件数 10 件以上

(2025 年度研究成果に関するプレスリリース件数 10 件)

※良い研究成果を対象としてプレスリリースすることとしており、その対象基準を 5 年インパクトファクターが 5 以上の雑誌又は Nature Index に採用されている雑誌に掲載されたものとしている。

【法人運営事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ウ)

- ・「学校法人神戸薬科大学寄附行為」の改正
- ・内部監査の充実
- ・大学基準協会及び薬学教育評価機構の第三者評価受審

(オ)

- ・外部資金獲得の強化
- ・適正な予算の作成と執行
- ・計画的な第 2 号基本金引当特定資産、研究充実準備積立金の積立・取崩

法人運営においては、昨年度に引き続き、私立学校法改正に伴い 2025 年 4 月 1 日付で施行された新寄附行為に則った法人運営を行い、理事会は「意思決定機関」として迅速な決議、対応の遂行を、評議員会は「諮問機関」としてチェック機能を高めることを目指します。また、監事においては、理事会及び評議員会に出席するとともに意見を述べ、法人の業務、財産の状況、理事の業務執行の状況等を監査します。他方、適正な法人運営を目指して、理事長と教職員との面談、並びに、求人企業や寄附団体などの学外ステークホルダーの皆様との意見交換についても継続して取り組む予定です。

2024 年度に整備した内部統制システムの基本方針に基づき、2025 年度から理事の職務執行、リスク管理、コンプライアンスの管理、監査業務等を行っていますが、運用開始 2 年目を迎えるにあたり、これまでの運営体制について検証を行うとともに、必要に応じて改善を

図ります。

ガバナンス・コードについては、日本私立大学協会改定の「私立大学ガバナンス・コード」＜第2.0版＞が2025年4月1日から適用開始され、引き続きそのコードに基づき、点検を行います。本学の実情を解釈して遵守状況を点検し、その結果を毎年ホームページで公表するとともに、日本私立大学協会へ報告します。

2025年度に行われた学長選考において北川学長が再任されたことを受け、2026年度を最終年度とする第3次中期計画の進捗状況を確認し、その総仕上げを行うとともに第4次中期計画の策定に着手します。

内部監査では、「最近監査対象となっていない者及び競争的資金を複数受給している場合は、不正発生のリスクが高まる」との文部科学省ガイドラインを考慮して監査対象を決定していきます。2024年度に受審した「薬学教育評価機構による第三者評価(専門分野別評価)」の結果を受け、改善項目の対応を検討し実施します。

財務面については、引き続き学生生徒等納付金収入の安定的な確保を図るとともに、収入源の多様化を図るため、積極的な外部資金、補助金・寄付金収入の獲得に努めます。支出においてもキャンパス整備の推進に多額の資金投入を行っており、経常経費を含め予算を慎重に審議し、適切かつ効率的な資金投入を行います。

教職員の労働環境については、勤怠管理や各種申請業務の電子化(ペーパーレス化)を加速させることで事務の簡素化・効率化を一層推進します。これらのICT化を基盤として、子育て世代が働きやすい職場環境の充実に取り組むとともに、介護と仕事の両立を支援する制度の周知徹底を図り、ライフイベントに柔軟に対応できる職場づくりを推進します。

なお、大学改革の一環として事務組織の改編を検討し、実施してきましたが、2026年4月1日から経理課と施設課を統合し「管財課」へ改組します。改組後は、合理的かつ効率的な組織運営体制を構築します。

「重要業績評価指標(Key Performance Indicator)」設定

新「学校法人神戸薬科大学寄附行為」に則った法人運営及び内部統制システムの適正な運用

【キャンパス整備事業】

第3次中期計画細目の関連項目

(キ)

- ・SDGsを意識したキャンパス整備の推進
- ・バリアフリー化の推進

(ク)

- ・教育研究活動の高度化を支える情報基盤整備
- ・近未来型図書館の構築

キャンパス整備事業においては、旧 1 号館跡地を「神薬ガーデン」として整備し、2026 年 3 月末にグランドオープンを迎えました。これにより、これまで耐震化を中心に進めてきた大型キャンパス整備事業はすべて完了しました。同時に、学内の全校舎間における移動のバリアフリー化が実現し、学生の安全性と利便性が向上しました。

今年度のキャンパス整備においては、学生向け施設の充実に主眼をおき、学習・課外活動環境の最適化を推進します。まず、熱中症対策として体育館及び卓球室に空調設備を設置する他、路盤の劣化が著しい運動場・テニスコートの全面改修を行い、「すべての人の健康と福祉を」という SDGs の理念を踏まえ、安全で快適な学生のキャンパスライフを構築します。なお、これらの仕様については学生の意見を参考に計画いたします。また、これまでの耐震化に伴う大型案件が完了したことから、今後の各棟の維持保全を計画的に進めるため、昨年度に策定した 2026～2030 年度施設保全計画に基づき、E 棟吸収式温水器保守部品交換や各所照明器具の LED 化を順次行います。さらに、学内情報基盤整備の一環として、情報基盤のさらなる充実を目指し、サーバ機器の冗長化やデータ連携基盤構築、老朽化したネットワーク配線の更新を実施します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

神戸薬科大学における学生の課外活動における利用居室の空調化率 100%
(2025 年度の整備率 53%)

【学生募集強化事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(カ)

- ・入試制度の継続的な見直し
- ・入試広報の強化
- ・特待生制度の活用並びに検証及び改善
- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定高等学校連携

出願者の大幅な増加を目指し、新方式の導入や入試種別毎の入学定員の最適化など、入試制度の継続的な見直しを行います。2026 年度入試においては、年内入試 4 種（総合型、学校推薦型（指定校制・公募制専願・公募制併願）および一般選抜 4 種（A 日程・B 日程・地域枠・共通テスト利用）の計 8 種の多様な入試で、潜在的な志願者の掘り起こしを図りました。特に学校推薦型公募制における「外部英語試験活用方式」や一般選抜 B 日程における「大学入学共通テスト併用方式」の導入により、新たな層からの志願者獲得を推進しています。2027 年度入試に向けては、学校推薦型での「1 科目方式」と一般選抜での「7 科目型共通

テスト利用方式」の導入を検討します。また、「新入生特待生制度」や一般選抜（A日程）の「入学金延納制度」を継続するとともに、新たに学校推薦型公募制併願型合格者を対象とした「入学金返金制度」の新設を検討し、国公立大志望の受験生の確保に取り組めます。さらに、受験生の利便性向上や受験機会の拡大を目的に、CBT方式による入試方法について検討を進めてまいります。

入試広報の強化は、地元兵庫県からの出願者減少に対応するため、「薬学への誘い」「サイエンスフェア in 兵庫」「ROOT プログラム」など、地元の高校生を対象とした事業に積極的に取り組めます。特に、スーパーサイエンスハイスクール指定高等学校（SSH校）との連携強化を拡大継続していきます。SSH校とのパイプ強化の核となる事業「薬学への誘い」は、本学での研究の実体験を通じて薬学の奥深さ・幅広さを知ってもらう企画で、参加者の中から最終的に入学に至るケースも増えており、引き続き拡充していきます。さらに、志願者の大半を占める兵庫県や大阪府の高校に対しては、昨年度に引き続き教職協働を実践して重点的に訪問し、薬学出前講義あるいは新教育棟（A棟）での薬学講義を積極的に実施し、高校低学年から本学の知名度向上を図っていきます。オープンキャンパスについては、全学年対象の夏季と高校2年生向けの秋季に加え、2025年度から実施している新高校3年生向け春季（4月）の体制を継続し、A棟を開催拠点とした高水準のICT環境や教育の質、学生生活など本学の魅力を発信します。また、SNSや学習支援アプリなどの広告媒体の見直しも継続的に行っていきます。

年内入試による入学者が定員の約4割を占める現状を鑑み、合格から入学までの期間における学習意欲の維持と、基礎学力の確保が重要となっています。本学では、主に年内入試（専願型入試と入学を確約した併願型入試）の合格者を対象に、学内教員による充実した「入学前教育」を実施しており、高校から大学への円滑な接続を目指します。この取り組みを、高校生だけでなく、高校や保護者に対しても積極的に周知することで、本学の充実した教育体制をアピールし、志願者増を図ります。

大学院においては、本学独自の薬剤師レジデント制度を活用した「薬剤師レジデント（研究志向型）大学院博士課程」のさらなる強化を図ります。2027年度より、従来の神戸大学医学部附属病院に加え、新たに連携協定先である地方独立行政法人堺市立病院機構及び国立研究開発法人国立循環器病研究センターへと受け入れ先を拡充予定です。この高度な臨床・研究環境の整備により、高度な専門知識と実践力を兼ね備えた医療人の育成を推進するとともに、魅力ある教育プログラムの提供を通じて大学院入学定員の着実な確保を目指します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

入学試験出願者数前年比 105%

（2025年度実績 出願者数前年比 93%

2025年度総出願者／2024年度総出願者数 ＝ 1,701名／1,829名）

大学院 入学定員充足率 100%
(2025 年度実績 入学定員充足率 200% (6 名/3 名))

【広報・地域連携・生涯研修・その他の事業】

第3期中期計画細目の関連項目

(ウ)

- ・大学ブランド力の強化
- ・スタッフの資質向上、ハラスメント防止、IT化推進、働き方改革のための定期的なSDの実施

(エ)

- ・情報発信ツールとしてのホームページの見直し
- ・インターネット、新聞、テレビ、ラジオ等あらゆる媒体を使った広報展開

(ク)

- ・米国、東南アジアの国々とオフライン、オンラインでの交流実現

地域連携事業においては、「くすりと健康セミナー」「健康サポートセミナー」「メディカルカフェ」「パーキンソンカレッジ」「知って安心！おくすり基礎講座」など多彩なプログラムを展開し、地域社会への大学の貢献を強化します。また、東灘次世代医療人材育成コンソーシアムとの共催事業として、7月開催予定の「健康サポートセミナー」を公開市民講座として実施します。

生涯研修においては、対面開催講座・e-learning 講座ともに充実させ、最も大きなイベントである「卒後研修講座」は対面開催を行った後、e-learning 講座としてオンデマンド配信することで、遠方者を含む幅広い層へ訴求します。また、グループディスカッションを通じた「症例検討会」や「薬剤師実践塾」等の実習・実践・実技の講座を実施します。さらに、講座受講者数及び認定薬剤師証の発給数増の施策として、①エクステンションセンターWEBサイトの情報量及びユーザビリティの強化 ②既存広報に加え、WEB 広告を出稿し、「講座申し込み・認定薬剤師制度の紹介」の打ち出しを実施します。

国際交流においては、一昨年度より再開した海外薬学研修（アリゾナ研修）に加え、新たにカリフォルニア研修を実施することで交流を更に活発化させるとともに、米国以外の渡航プログラムについて検討します。

広報活動においては、オウンドメディアである各 SNS の特性を最大限に活かした多角的な広報展開を推進します。具体的には、2024 年に発足した「学生広報サポーター」による大学公式 Instagram をさらに充実させ、ビジュアルを通じて学生生活のリアルな魅力を発信します。また、大学公式 X（旧 Twitter）では、最新のニュースやイベント情報をタイム

リーに発信し、受験生や保護者、地域社会への情報拡散を促進します。さらに、月2回の番組配信が定着し好評を博している大学公式YouTube「ききょうTV」については、引き続き動画ならではの訴求力で本学の教育内容を深く浸透させます。これら複数のメディアを有機的に連動させることで、新教育棟をはじめとする本学の優れた教育環境を全方位的に発信し、大学ブランドのさらなる強化を図ります。

定期的な「SD研修会」の実施を通じて、教職員の資質向上、コンプライアンス遵守、ハラスメント防止、および働き方改革を推進します。現在、2027年4月1日付採用予定で2研究室の教授公募を行っていますが、女性からの積極的な応募を勧奨しています。引き続き、ダイバーシティ推進の観点から、教員公募の際には女性の積極的な採用に努め、専任教員教授における女性比率の目標遵守に向けた取り組みを継続します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

専任教員教授の女性比率 25%以上

(2026年4月1日の専任教員教授の男女比 男：女 26人：10人 72%：32%)

以上